

選後評

初年度の選考を終えてー 『自立した市民による「新しい公共」への予感』

選考委員長 西村秀俊

< 結果の概要 >

このプログラムは今年度から「個性が輝く“ひと・まち・暮らし”づくり」をキーワードに内容を一新し、1都7県を公募エリアとして広く多彩な分野の市民活動団体に助成させていただくこととなった。これに対し、実に265件にのぼる応募があり、領域・内容は多様だが、いずれも自らの創意と工夫と努力で社会を真に豊かなものにしていこうと決意した人々の思いが伝わってくるものであった。それを、限られた数の助成対象にしばりこむのはたやすい作業ではなく、とりわけ第2種助成では競争率がきわめて高く困難をきわめたが、選考委員一同、ひとつ一つの応募に込められた志に敬意をこめながら精一杯の検討を重ね、18件を選らばせてもらった。

内訳は、第1種助成(上限30万円)が応募109件のうちから14件、第2種助成(同100万円)が156件から4件。合計額はいずれも399万円で、今年度の助成総額は798万円となった。

< 選考の経過 >

今回の選考作業では、予想を超える応募件数があったため、まず書類による予備審査をおこなった。これには、各都県で日ごろ地域の市民活動を応援している中間支援組織スタッフ、営業活動を通して地域社会の実情に接している中央ろうきん各都県地区本部の本プログラム担当者、中央ろうきん本部のプログラム総括担当者、市民社会創造ファンドの担当スタッフの4者が当たった。

4者のチーム全員が、助成趣旨に照らしながら、応募用紙を丹念に読み込み、活動目的に明晰さが足りなかったり、内容に混乱・齟齬のあるもの、具体的な方法があいまいであったり、必要事項の記載もれがあったものは、この段階で残念ながら本審査の候補からはずされた。次いで、本審査に残った応募案件について、選考委員長を除く6名の選考委員が各自の専門的な分野から詳細に評価をおこない、それぞれ推薦5件と準推薦2件を候補として選出した。1月末に開催した選考委員会では、これを総合した上で1件ごとに時間をかけて討議し、最終的に補欠を含む助成対象候補を決定した。

さらにこの後、それぞれの候補に関して選考委員会が出された疑問点や書類だけではつかみきれなかった点を、第1種では事務局が随時、電話インタビューで確認し、第2種では全団体を直接訪問して補足説明を受けるといった手順を重ねた。このプロセスを通して、各団体が抱えている将来展望や、その活動がもたらすと期待される波及効果など、より膨らみのある判断材料を得ることができ、最終決定の貴重な要素となった。

< 応募全体の印象 >

応募団体から受けた印象をひとこと言えば、市民活動の幅が急速に広がっていると同時に、明確な目的意識に立つ団体が増えているということであった。応募要項でキーワ

ードに掲げた「ひとづくり」「まちづくり」「くらしづくり」の3つの活動は、実際には互いに重なり合う面を持っていて、はっきりとは分けられないが、おおまかに分類すると、やはり福祉・医療を含む「くらしづくり」の分野の応募が全体のおよそ半分を占めた。しかし、従来、ボランティアな活動では障害者福祉、高齢者福祉に関わるものが圧倒的に多かったことからすると、子ども・青少年の成長を支えようと立ち上がる「ひとづくり」、さまざまな角度から地域の人間関係の構築を企てる「まちづくり」のグループの比重は決して低かったとは言えず、むしろ、そちらに向かっての関心が切実さを増していると感じさせられた。地域でいうと東京都からの応募が際立って多い中で、極力、他県の人たちへの期待を込めて選考した。とくに今回応募の少なかった栃木、群馬両県からについては今後応募の一層の活発化を待ちたい。

当然のことながら、熱い思いは十分に伝わってくるものの、具体的な組み立て方や展開の手法についての習熟度が足りず、選にもれた団体も多かった。だが、それらを含めて、今後ますます市民の自立した動きが「新しい公共」を形づくっていくにちがいない、という確信に似た予感を抱かせられた。今回の応募を良い経験として生かし、次回以降もぜひチャレンジしてもらいたいものである。

< 助成対象の特徴 >

選考委員会では、計画の完成度、安定度を過剰に重視することはしなかった。未知数の要素がかなりあっても、新鮮な視点、独創的な手法で社会が必要とする活動に取り組もうとしているものを発見しようと努めた。それは、新たな活動のスタートを助成する第1種の場合はもちろん、すでに長期的な実績がある団体を対象としている第2種でも同様だった。第2種のわずか4件の中に、まだ活動年数1年強の「向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求める会」が入ったのはその表れと言える。

第1種では、分野的、地域的に偏りが生じないように心がけたものの、結果として子育て、障害児や自閉症の子どもへの支援など「ひとづくり」に関わるものが14件中8件を占めることとなった。ここまでしなければ、本当にこの子どもたちの成長を助けることはできない、という痛切な現実があるのに、行政には目を向けてもらえないでいる活動領域が、こんなにもある。「かつしか風の子クラブ」「自閉症サポートセンター」「水戸共に育つ会」そして「NPOカタリバ」などの応募内容から読み取れたのはそのことである。「よつばの会」の看護師さんたちが、忙しい本業の合間をぬってボランティアを続けている養護学校での活動は、文部・厚生縦割りの行政の問題を身をもって突きつけているかのように思えた。だが、この人たちの誰も行政を非難したり、告発がましいことは言っていない。やらなければならないことから、自分たちがやる。ただ、それにかかる資金がない。助成してくれる民間基金があるのなら、ありがたい。ぜひ、お願いしたい。そう言っているだけなのである。多少、バランスに欠ける印象になるとしても、助成の趣旨に照らして、選考委員会としては、それに応えたつもりである。

なお、第2種については、助成にあたっての推薦文を以下に記載したのでご参照いただきたい。

< 第2種助成対象について >

市民の医療ネットワークさいたま（埼玉県）

市民の福祉と医療の情報センターの設立

医療と福祉を専門とする常設の情報センターを開設し、埼玉県内の市民ニーズに沿った情報を提供するための事業の立ち上げである。医療や福祉という、専門性が高くかつ個人の生命にも関わる情報の提供を行なうことの重要性は大きい。医師など専門家との情報交換も十分に行いながら、市民の目線による情報の提供に期待したい。同時に、医療・福祉情報の専門NPOとして、安定した活動を継続していくための体制づくりにも留意していただきたい。

不登校情報センター（東京都）

あゆみ仕事クラブ「印刷室・版下制作部」の設立

引きこもりの経験のある人で、社会参加(就労)を希望しながらも一般の人と一緒に仕事するのに抵抗感の強い人たちが、技術を身につけながら、共同で仕事を探し、仕事場づくりを行なうための事業である。事業の推進とともに、経済的に自立した組織づくりをめざして、組織運営基盤の確立や運営・活動に関わるボランティアの参加を促進するための取り組みも併せて行なっていただきたい。

特定非営利活動法人 訪問看護ステーション コスモス（東京都）

デイサービス事業の立ち上げ

山谷地区(東京)で、訪問介護・居宅介護支援、結核予防、精神訪問看護などを行ってきた団体が、商店街の事務所スペースを改築・利用して行なうデイサービス事業である。今後、公的介護保険事業者としては、一層の経営努力が求められることになるが、これまでの地域医療と山谷を繋いできた実績をベースに、さらに地域とのつながりを拡充し、だれもが安心して住める街づくりへ貢献していただきたい。

向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求める会（神奈川）

地域資源の発掘・活用と向ヶ丘遊園跡地利用の提案

神奈川県川崎市で長年市民に愛されてきた“いこいの場所”が閉園となった。これをきっかけに、跡地の利用方法を決定する立場にある主体に対して、市民の立場から、地域にとって何が大事かを表明しながら検討を促し、共に考えられる場の創設を目指す。地域の他団体や一般市民の声を丁寧に集めながら、市民からの提案を行うことで、地域におけるまちづくりのモデルとなることを期待したい。

< 選考委員一覧 >

選考委員長	西村 秀俊	元朝日新聞論説副主幹
選考委員	安藤 雄太	東京ボランティア・市民活動センター 副所長
	佐谷 和江	株式会社計画技術研究所 代表取締役
	福田 房枝	特定非営利活動法人日本子ども NPO センター 専務理事
	山口 郁子	中央労働金庫営業推進部広報室 調査役
	横田 能洋	特定非営利活動法人茨城 NPO センター・commons 事務局長
	渡辺 元	特定非営利活動法人市民社会創造ファンド 運営委員

< 予備審査担当 > (都県ごとに実施)

(茨城)	中央労働金庫茨城地区本部 特定非営利活動法人茨城 NPO センター・commons
(栃木)	中央労働金庫栃木地区本部 特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク
(群馬)	中央労働金庫群馬地区本部 特定非営利活動法人市民立 NPO カレッジ
(埼玉)	中央労働金庫埼玉地区本部 特定非営利活動法人さいたま NPO センター
(千葉)	中央労働金庫千葉地区本部 特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ
(東京)	中央労働金庫東京地区本部 東京ボランティア・市民活動センター
(神奈川)	中央労働金庫神奈川地区本部 特定非営利活動法人まちづくり情報センターかながわ (アリスセンター)
(山梨)	中央労働金庫山梨地区本部 特定非営利活動法人山梨県ボランティア協会